



京臨技会報

KYOTO ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所 (社)京都府臨床検査技師会

発行責任者 湯浅宗一

編集者 佐々木由紀子

小原 伸之

白波瀬浩幸

〒606-8395 TEL・FAX 075-752-5090

京都市左京区丸太町通東入ル東丸太町

9番地の1 マンパワービル3F

CONTENTS

NEWS	京臨技仮会員（会費無料）の制度発足
CONTRIBUTION	合言葉は「サバ (Ca va)」 - 仏語圏アフリカ臨床検査技術コースの実習に協力して -
SCHEDULE	行事予定
REPORT	研修会報告
PROCEEDINGS	理事会議事録（第9回、第10回）・理事・班長合同会議議事録

京臨技仮会員（会費無料）の制度発足

京臨技では、会の活性化を図り尚一層発展させていくために、会員数 1,000 名を目指しています（2007 年 4 月現在の会員数：934 名）。その具体策として、平成 19 年度より、新卒技師を対象とした「京臨技仮会員証」を発行することにいたします。

これは、新卒技師は経済的に不安定要因が多く、また国家試験合格発表後に登録番号が本人へ通知されるのは 4 月下旬から 5 月となるために、次年度会費納入時期の 12 月までの期間に初年度一年分の会費を払うのは割高感があることから、『体験入会』を勧めようというものです。初年度に京臨技活動の有用性を実感してもらい、次年度からは正会員としての入会を促すことを目的としています。

しかし、「京臨技仮会員」に登録いただいても、京臨技主催行事（研修会、実技講習会等）に会員と同じ条件で参加できる（生涯教育履修点数はつかない）というだけで、近臨技や日臨技の行事には会員としての参加はできず、医学検査や京臨技の会誌・会報などは配布されません。

みなさまの施設に新卒者が入職された場合、是非、正会員として技師会への入会をお勧めください。もし、経済的あるいはその他諸般の事情で入会に躊躇されている方がおられましたら、「京臨技仮会員証」の制度があることをお伝えいただき、『体験入会』の後に京臨技へ入会できる選択肢があることもお知らせください。

【京臨技仮会員（会費無料）となる要件】

臨床検査技師養成学校（大学、短期大学、専門学校）卒業後 1 年以内のもので、京都府内の施設に所属するか若しくは京都府内に在住の臨床検査技師。

京臨技活動に賛同できるもの。

次年度には技師会正会員になる予定のもの。

手続き方法など詳しいことは、京都保健衛生専門学校（TEL・FAX：075-821-6711、eメール：office@kyoto-amt.js-md.net）の小澤理事までお問い合わせください。



京臨技丸太町川端事務所前の鴨川沿い歩道の桜

CONTRIBUTION

投稿

合言葉は「サバ(Ca va)」

仏語圏アフリカ臨床検査技術コースの実習に協力して

「仏語圏アフリカ臨床検査技術コース」は、国際協力機構(JICA)の事業である発展途上国への技術協力(研修員受入)の一環として、研修委託機関の国際医療技術交流財団(JIMTEF)が実施する医療技術研修事業です。研修目的は、文化、習慣の違いを克服し、自国の医療環境の向上に必要な感染症に関する技術、知識を習得し、帰国後は日本で学んだ事の移転に努めます。

研修生の臨床検査技師は、西アフリカのベナン・ブルキナファソ・キニア・マリ・ニジェール・セネガルの6カ国より12名が来日し、8/21～12/4の106日間JICA大阪を拠点に研修を受けました。近畿臨床検査技師会が研修実施機関に指定され、大阪府技師会国際貢献専門委員会が企画や調整、京都や滋賀県技師会が実習協力を行いました。

研修内容は、基礎微生物学検査学と感染症学の講義、基礎微生物学検査の実習、研修旅行・工場見学・学会視察および病院実習と、土日も含むかなりハードなスケジュールとなっております。大阪大学医学部保健学科での基礎微生物検査実習指導と京都府立医大での病院実習の研修体験レポートです。

(サバ：大丈夫ですか・わかりましたかという意味で使われた)



来日した研修生



仏語圏西アフリカ諸国

基礎微生物検査実習(培地作成)を担当して

京都市立病院 林 彰彦

今日は実習初日です。実習室に緊張気味に入ってきた研修生12名は、出身国別に実習台に着きました。まずはよろしくの挨拶と握手をしてお互いの名前と呼び方を確認しました。実習を組む2名の研修生はともにベナン国出身で、女性のレアと男性のアブドゥルです。レアは国立大学病院の検査技師で微生物経験は7年ですが、検査室の顕微鏡は壊れており、隣の寄生虫検査室から借りてきているそうです。一方のアブドゥルは、母子病院に勤務し微生物経験は1年ですが、帰国後は微生物検査室を立上げ、検査室の方向性を決め

る立場にあるそうです。

初日の実習は、今後使用する培地の作成です。知識欲は貪欲で納得するまで質問し確認します。最初の質問は培地の成分についてです。英語読みの説明に相手は「????」。仏語では私は「????」。困ったことに通訳氏は化学用語に「????」。チョコレート寒天培地は「シヨコラ!」これは共に納得しました。そんなこんなで筆談と身振り手振りでなんとか予定通りに進みました。

昼はJICA大阪に帰っての食事です。バスの中で私

のデジカメの写真をみせたら大喜び。「これマイワイフ」「オオービューティフル」と外交辞令。「ベリストロング、トテモコワイ」とやり返す。1日が長く感じ

た実習でしたが、言葉は通じなくても何とかなりました。後日、福井での近畿学会で再会し感激しました。お国に帰ってもがんばってね。



実習を担当したレアさん

実習風景説明

アブドゥルさん

白金線・白金耳の作製、マックファーランド液の調製実習を担当して

京都第二赤十字病院 小野 保

2006年9月18日、仏語圏アフリカ臨床検査技術コースに参加しましたので報告します。私が担当した実習内容は、マックファーランド液の調製と白金線・白金耳の作製でした。

マックファーランド液の調製では、普段、アフリカの病院では、試薬や器具の供給が過少のため、ほとんどピペット操作をしたことがないらしく、ぎこちない手つきでピPETTINGされていたのが印象的でした。一転して白金耳の作製では、大きな手を器用に使い講

師の先生方より上手に作製しておられました。現在の日本のように“物を買う”生活ではなく、普段から“物を作る”生活を送っている技術力を感じました。

1日という短い時間でしたが、参加させていただいて、アフリカの現状や医療の情勢を知ることができ、またそれぞれの国を代表する研修生の熱意と接することができて、大変、貴重な経験をさせていただいたと共に、有意義な日であったと強く感じました。



慣れない手つきで培地を作成

生殖器感染症実習を担当して

日本医学臨床検査研究所 古川 弘

西アフリカ6カ国、マリ(Mali)、ブルキナファソ(Burkina Faso)、ニジェール(Niger)、ベナン(Benin)、ギニア(Guinea)、セネガル(Senegal)より研修員12名来日され、大阪大学医学部保健学科の基礎微生物実習室で臨床検査技術コース研修会が9月17日～10月1日まで行われました。微生物検査の全般の実習で培地の作

製から材料別微生物学的検査報告までの研修です。私は、9月30日に生殖器の感染症の実習を担当することになりました。

9:30から研修開始なのですが、9:00に実習室に入ると既に講師の先生たちが集まり、昨日からの引継と本日の実習スケジュールについて綿密に話し合

いをされてきました。話しによれば各国によって微生物検査の力量に差があり、スケジュール通りなかなか進まず、実習の進行のバランスがうまくとれないということでした。説明を聞いているうちだんだん不安になってきました。最終的に実習の時間配分については、各テーブルの実習担当者に任せることになりました。

9 : 3 0 になると J I C A のバスで研修員が到着。研修員が一同に実習室に入り “おはようございます” “オハヨウゴザイマス” 元気のいい声が響いています。私も負けじと大きな声で挨拶をしました。さて、私の研修員の担当ですが、ブルキナファソのヤンビ(Yambi)さんとジェラルル(Gerard)さんの二人です。二人とも男性の方で微生物検査は、あまり経験がないそうです。

実習責任者の指示で実習が始まりましたが、やはりなかなか思うようには進みません。ひとつひとつ納得

がいくまで次のステップに進んでくれません。身振り手振りと片言の英語で説明するのですが、なかなか理解してもらえません。二人しかいない通訳の人を呼び通訳を介しての説明を延々とした結果やっと理解してもらえました。この工程の繰り返しが続くのです。午後になるとお互いの言いたいことも片言の英語で少しは通じるようになりました。

研修員は、今断食の時なので昼食を食べずに研修をしており、夕方になると機嫌が悪くなるよと聞いていましたが、お互いに熱心な会話をしていたので、そんなことは、気になりませんでした。たった一日のおつき合いでしたが、最後には研修員が持ってきたデジカメでテーブル全員の写真を撮ってくれました。少しはブルキナファソとの友好に貢献できたかな！

「2006 年 9 月の一日」腸管感染症実習を担当して

(株) かがく 山本 勇藏

「オッハヨウ、ゴザイマッス！」、色とりどりのいでたちで彼らは実に気さくに、おおらかに入ってきた。皆、元気で明るい。そして笑顔が素適だ。クリッとした目が合うとニッコリして、頭を下げる。するとバニラのような甘い香りが、漂ってくる。ゆったりと自分たちのテーブルへ行き、大きな身体に白衣をつけ始める。ひと時、すでに顔なじみとなっているスタッフや研修生同士で談笑が始まる。何故か、日本人スタッフとは「サバ？」、「サバ！」という掛け合い。

講義が始まる。ソワソワと皆が中央にある実験机に集まる。机の周りの空間がなくなり、熱心に話しを聞き始める。その横顔を見ると、長い睫毛が上向きにカーブしていて瞳は優しく、しかし鋭く講師の顔を凝視している。時折、自分のノートを点検しながら、頷い

たり首を横に振ったりしている。すかさず手を挙げ質問。分かり易い通訳の内容を聞くと、ホッホ - と思う角度からの質問。納得しない。尚も質問。やっと納得か。フンフンと頭を大きく立てにふり、メモをする。

さて、実習だ。「ガンバリ、マッス！」とゴム手袋をして、ガスバーナーを取り出し火をつける。白金耳を危なっかしく焼き、作業の開始だ。なかなか順調だ。「ヨロシク！」と横に立ったり、後ろに立ったりして見守る。思わず、「ノー、ノー！」とは言ってみたものの、さて、次にどう言えばいいの？「ルックアツツミー」と、培地を奪い、白金耳を取り上げ、ただ手を動かすだけ。あとは、ニッコリ笑って「サバ？」、「オーウ」首を立てに振ってもらって「サバ！」。

まあ、こんな感じで、終わった一日だった。



病院実習ではお国の説明から（京都府立医大病院にて）



安全キャビネットを使って培養実習

「仏語圏アフリカ臨床検査技術コース」の受け入れ先施設になって

京都府立医科大学附属病院 小森敏明

研修前半の基礎的な微生物検査の講義と実習は JICA 大阪と大阪大学医学部保健衛生学科で行われました。研修後半に病院研修が企画され、当院は受け入れ施設としてマリからの研修生を受け入れました。

研修初日のヒアリングでマリの医療施設の現状と研修生の希望を把握し、施設の検査環境に合致する研修を行いました。研修内容を以下に示します。

- 1) 手洗い実習(フィンガーストリーク法)
- 2) グラム染色の原理と実習、標本観察
- 3) 感染症検査の流れと検体の採取と保存、品質管理の説明
- 4) 血液培養ボトルの検出原理と検体採取量および検査回数と検出率の説明
- 5) 培地の種類と培養条件
- 6) グラム陽性球菌同定実習(ブドウ球菌とレンサ球菌の鑑別)
- 7) グラム陰性桿菌同定実習(腸内細菌とブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌の鑑別)

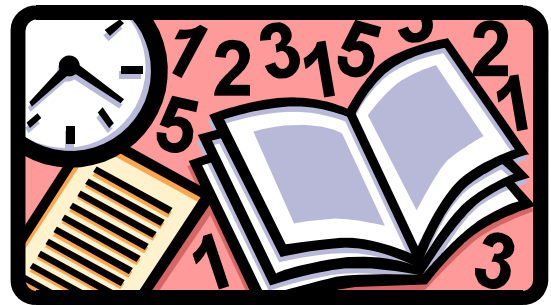
- 8) 薬剤感受性検査実習(微量液体希釈法とディスク拡散法)
- 9) 感染症と抗菌薬、薬剤耐性菌、薬剤感受性検査結果の解釈の説明
- 10) 微生物迅速検査(菌体成分、毒素、ウイルス抗原、抗体)の説明
- 11) 結核菌検査の説明と染色実習

全ての研修終了後に JICA 大阪で帰国後のアクションプラン発表会が開催されました。マリの研修生からは、日本での研修で得た技術や知識を生かし、これまで実施していなかった検査や精度管理、衛生管理の導入などのプランと実現のための条件、実施期限が発表されました。

本研修を受け入れたことにより、1)文化の異なる人々と検査を通じて交流する、2)基礎技術の見直し、3)指導力の向上、4)検査技師として社会貢献することが可能となりました。資材、機材、試薬が不足する環境で、感染症検査を行うためには何が重要なのかを考える良い機会となりました。

行事予定

最新の予定はホームページで
ご確認ください



生理分野【研修会】07-002

日時：平成 19 年 05 月 19 日(土) 15:00~17:00
会場：京都保健衛生専門学校視聴覚教室
座長：辻 真一郎 技師(京都桂病院)
主題：心電図研修会初級編
講師：増田 信弥 技師(京都民医連中央病院)

細胞分野【実技講習会】07-003

日時：平成 19 年 06 月 30 日(土) 13:00~17:00
会場：京都保健衛生専門学校
座長：黒川聡 技師(国立病院機構京都医療センター)
主題：乳腺細胞診ワークショップ(見方と実技講習会)
講師：南雲サチ子 技師(大阪府立成人病センター 臨床検査科細胞診) 事前申込み制

社団法人京都府臨床検査技師会 平成 19 年度定期総会・新事務所披露祝賀会

開催日：平成 19 年 5 月 26 日(土)

<定期総会：生涯教育点数 A - 10 点>

開催時間：総会：午後 2 時 00 分から、新事務所披露：午後 3 時 30 分から、祝賀会：午後 4 時 00 分から

開催場所：京都教育文化センター・川端丸太町事務所

REPORT

研修会報告

チーム医療（糖尿病療養指導）

日時：平成 19 年 03 月 03 日（土）13：00～16：30
会場：ぱるるプラザ京都
主題：ちょっと得する検査の読み方
講師：小原 伸之 技師（独立行政法人京都医療センター検査科）
主題：ちょっと得する薬の知識
講師：上田 善美 氏（独立行政法人京都医療センター薬剤科）
主題：知って得する患者心理
講師：岡崎 研太郎 医師（独立行政法人京都医療センター予防医学研究室）
共催：京都 CDE の会・三光純薬株式会社

独立行政法人京都医療センター検査科 小原 伸之

今年も 3/3 日にぱるるプラザ京都に於いて『第五回糖尿病指導士講習会』を行いました。この会はチーム医療、特に糖尿病教育に技師がどう関わっていくのか？を考えることや、各個人の基礎レベルの向上を目的として企画し 3 年前から活動しています。

今回は“知って得する基礎知識”をテーマにして、検査の話、薬の基礎、患者心理を中心に勉強を行いました。参加者は臨床検査技師、看護師、栄養士さん、合わせて 34 名の参加がありました。技師はそのうち 24 名でしたが京都からの技師の参加は 9 名と地元での参加者が少なかったのが少し残念です。薬の話は作用機序や実際どのように患者さんに説明しているのかをより実践的に講演していただきました。患者心理の話では来院時にまず、患者さん本人は何が気になっているのか？を聞き出す方法、精神変化ステージなどを探るための 4 つの質問を教えてください。また、「質問ありませんか？」と言う受身な聞き方ではなく「質問ありますよね？」と言った前向きな聞き方など、検査技師の学校では薬や患者心理は講義を受けていない為、個人的には大変、新鮮で興味深かったです。

指導の基本はいかに患者さんの本音を聞きだせるかにかかっていると考えます。いくら理想的な治療や生活をプランニングしても実践するのは患者さんで、本人の納得を得られないとうまくいくはずがありません。ですから、我々糖尿病指導士は《指導上手》ではなく《聞き上手》になって欲しいと考えています。たとえば、「実は隠れて今日のお昼に饅頭を食べた」だとか「足を切られるのは嫌やから足の傷を先生に見せるのは怖いんや」など医者や看護師さんには言えない本音を検査している時ついポロリともらす患者さんに遭遇することはないですか？このポロリと出た本音を聞き逃さずに臨床に報告する。

また、心電図などで足を出された時に傷や胼胝、浮腫の有無の確認をして臨床に伝えることでその情報が臨床に役立てることができれば立派な指導だと私は考えています。「私は話下手だから検査技師になった」と言われる方がいますが、どうでしょう？いきなり指導は無理でも先に書いたような聞き取りから序々に行ってみては？

頭で考えているだけで行動を起こさなければ何も考えてないのと一緒にです。何か行動を起こせば、誰かが見ていて評価してくれます。“まず、やるしかない！”と常に私は考えています。多分、今すぐ絶賛の評価を受けることは無理だと思います。3年、5年先の検査技師の為に、どうですか？あしたから一緒に地道に努力して頂けませんか？

●●● 血清 06-014

日時：平成 18 年 07 月 21 日(金)(19:00~20:30 ;
ぱるるプラザ)

参加人数：20 (20) 人 分類：A-10 点

主題：災害と医療について

副題：地震動予測データによる震災対策の喚起と大
災害がもたらす一般生活及び医療活動への影響

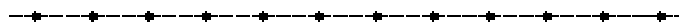
講師：半田 真澄 氏(オーソ・クリニカル・ダイ
アグノスティクス)

副題：そのとき医療現場は?(震災を実際に遭遇し、
経過・復旧へのアプローチ)

講師：西田 仁治 技師(西宮市医師会診療所)

今回、災害と医療についてという主題にて 2 人の
講師にお願いし講演会を行った。まずオーソの半田
氏に今後起こりうる地震予測および災害時に役立つ
検査法・測定機器について事細かく東海地震につ
いてなど講演していただいた。

ついで実際の現場としての立場から、阪神大震災
にあわれた西宮医師会の西田氏に、経験にもとずい
た対策法や今後の課題についてお話していただい
た。災害が発生した場合、どのように自らが行動で
きるかについて再確認でき、有意義な講演会であっ
た。平成 19 年 02 月 05 日報告：小寺 宏尚



●●● 血清 06-034

日時：平成 18 年 11 月 10 日(金)(18:30~20:00 ;
京都アスニー)

参加人数：44 (20) 人 分類：C-10 点

主題：化学検査と免疫検査の合体

副題：生化学と免疫機器の連結について

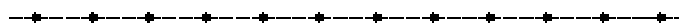
講師：兼弘 昌彦 氏(アボット・ジャパン株式会
社マーケティング部ラボソリューショングルー
プマネージャー)

副題：免疫専門家 から化学検査担当者への提言

講師：亀子 光明 技師(長野市民病院)

今回、免疫担当者のみでなく化学担当者にも参加
していただけるような講演会とした。おもに、アボ
ット社の兼弘氏に免疫・化学測定器の汎用型につ
いて機器の説明および特徴について講演していただ
いた。次に長野市民の亀子氏に化学担当者への提言
という形にて、測定原理から免疫の特徴・特性につ
いて、大変深い内容まで講演していただいた。日常
ないげなしに測定しているが、この講演会をとうし
て、日常より気をつけないといけない点や端的にメ
ーカの言いなりにならずプロの検査技師でなけ
ればならないということをより考えさせられる内
容であった。

平成 19 年 02 月 05 日報告：小寺 宏尚



●●● 微生物 06-038

日時：平成 18 年 11 月 17 日(金)(19:00~20:
30 ; 京都テルサ 第四会議室)

参加人数：27 (27) 人 分類：C-10-10 点

主題：グラム陰性桿菌の薬剤耐性と疫学的背景

講師：小松 方 技師(ファルコバイオシステムズ
総合研究所)

協賛：(株)栄研化学

薬剤耐性菌の増加や院内感染が大きな問題とな
っている今、薬剤耐性菌をよく理解し確実に検出す
ることが求められています。今回の講演では、最近
問題となっている数種類のグラム陰性桿菌の薬剤

耐性について、薬剤耐性機構や耐性の検出法、耐性
菌感染症の症例などをわかりやすく講演していただ
きました。

-ラクタマーゼ産生菌については、ESBLs
(Extended-spectrum beta-lactamase)、メタロ
ラクタマーゼ(MBL)、プラスミド関連 AmpC ラク
タマーゼが問題となっているが、薬剤感受性の結果
を基に耐性を検出し、それぞれの耐性の解釈に基づ
いた報告を行う必要がある。しかしすべてが薬剤耐
性のパターンニングにあてはまるとは限らず、誤っ
た耐性と判断してしまう可能性がある。ESBL の検
出法には Clavulanic acid-additional test があるが、
ESBL と AmpC 過剰産生の両方の耐性を持つよう
な菌はクラバン酸で阻害されないために注意が

必要である。

多剤耐性緑膿菌 Multi-drug resistant *P.aeruginosa*(MDRP)は、フルオロキノロン、広域ラクタム、アミノ配糖体等に耐性を獲得した株で、多剤耐性の獲得にはポンプ異常やメタロラクタマーゼなどの数種の耐性機構があり複雑である。MDRP 感染症の抗菌薬治療は困難なことが多いが、MIC の低い薬剤を組み合わせ併用する、持続点

滴によって MIC 以上の血液中濃度を長時間持続させる、また Polymyxin B や Colistin を用いるなどの方法がある。

グラム陰性桿菌の薬剤耐性機構はグラム陽性菌と比べて複雑な面があるが、それぞれの薬剤耐性のパターンニングをしっかりと理解すれば、アウトブレイク発見や治療薬選択のよい情報となる。

平成 18 年 11 月 17 日報告：本田 奈緒子

●●● 臨床化学 06-035

日時：平成 18 年 11 月 28 日(火)(18:30~20:30; 京都保健衛生専門学校 視聴覚教室)

参加人数：21(17)人 分類：C-79-10 点

主題：栄養アセスメント蛋白の有用性と NST について

主題：遠心分離操作不要の真空採血管について

講師：榎本 毅 氏(ニッポーメディカル学術部)

協賛：ニッポーメディカル

DPC(DRG-PPS)の実施で入院日数の短縮を行うためには、入院患者の栄養状態を的確に捉えることが、より重要となってくる。栄養指標として、静的・動的・総合的栄養評価がある。動的栄養評価法としてプレアルブミンなどの Rapid Turnover Protein の血中濃度は、栄養状態を鋭敏に反映する。これらを測定することは、栄養療法(経静脈的、軽症栄養

等)のモニタリング、入院時栄養スクリーニング、褥瘡患者の栄養管理に有用である。しかし、Rapid Turnover Protein の血中濃度は、種々の要因で変動するため個々の特徴を踏まえた上で、測定結果を判断する必要がある。

NST とは Nutrition Support Team で栄養療法を医師、看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師等が結集して行うチーム医療である。NST の役割は、栄養評価し栄養管理が必要か判定する、適切な栄養管理がなされているかチェックし、指導・提言する、合併症の予防、早期発見、治療、コンサルテーションがある。

遠心分離操作不要の真空採血管(チューブ 21-S)の特徴は、従来の遠心分離法による血清分離ではなく、濾過を原理としている。血液凝固時間を必要としない。遠心分離器を必要としない。現時点での短所としては血清量が少ない、一部の測定項目は測定に無理がある。

平成 19 年 01 月 09 日報告：荻野 和夫

●●● 事業部 06-008

日時：平成 18 年 12 月 09 日(土)(12:30~17:30; サンプラザ万助)

参加人数：54(46)人

主題：第 17 回(社)京都府臨床検査技師会北部学術発表会

特別講演、教育プログラム、一般演題発表(7 演題)

副題：災害医療について(特別講演)、尿検査の進むべき道を模索する(教育プログラム)

特別講演講師：中山 伸一 医師(兵庫県災害医療センター)

教育プログラム講師：佐伯 仁志 技師(国立病院機構京都医療センター)、宮前 英治 氏(シスメックス株式会社)、宮尾 雅美 氏(シスメックス株式会社)、東野 功嗣 氏(アークレイマーケティング株式会社)

協賛：オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス株式会社、シスメックス株式会社、アークレイマーケティング株式会社

通称「北部学会」。今年で 17 回を数え、暮れの一大会事としてすっかり定着した感がある。今年、

北部学術研究班のテーマ「災害医療」にちなんで、兵庫県災害医療センターの中山先生をお迎えしお話を拝聴した。患者・医療提供者両方がパニックになり、かつ非日常状態に置かれる災害。その現場からの生のメッセージとして多くの教訓を教えてもらった。また「災害時に私たち臨床検査技師は何ができるのか、また何を求められるのか」というテーマについても、その答え（ヒント）を与えてもらったような気がした。教育プログラムでは、「尿検査の進むべき道を模索する」と題して4名の先生から、現在の尿検査が置かれている現状（特に時間外）・血尿診断ガイドライン・尿検査の自動化についてご講演いただいた。限られた人員と時間の中で、高精

度かつ高効率求められる病院検査室の業務として考える時、尿検査の進むべき道は何か。その答えを見つける一助となる内容だった。一般演題は合計7演題。忙しいルーチン業務と平行して学会発表をする負担は大きい、自分達の職域に責任を持つ意味でも次回18回ではさらに多くの演題が集まることを期待します。学会終了後の懇親会では、中山先生も交えてとても楽しいひと時を過ごすことができ、一年間私たちを支えてくださった各メーカーさん・問屋さんに感謝する気持ちとともに、平成18年の最後の行事が終わりました。

平成 18 年 01 月 06 日報告：四方 学

●●● 一般 06-045

日時：平成 19 年 02 月 17 日（土）（13：30～16：00；ビル葆光 龍池 A）

参加人数：34（29）人 分類：C-71-10 点

主題：新しい尿中有形成分分析装置 UF-1000 i の紹介

講師：宮前 英治 氏（シスメックス株式会社 大阪支店 尿推進グループ）

主題：尿沈渣と尿細胞診が連携するために

講師：大崎 博之 技師（香川県立保健医療大学 保健医療学部 臨床検査学科）

二つの講演を受講した。一つ目の講義はシスメックス大阪支店尿推進グループディレクター・宮前英治氏の「新しい尿中有形成分分析装置 UF-1000i の紹介」で、まず最近の尿検査の動向を話された。「血尿診断ガイドライン」、「尿中赤血球形態の判定基準」、「UTI 薬効評価基準」について詳細に解説された。続いて新機種の紹介があり、半導体レザ・フロ・サイトメトリを原理とする尿有形分析装置の概要を知ることができた。最後に尿検査の保険点数の動向についても触れ

られ、臨床医の満足度を満たす尿検査をしていかなければならないことを痛感した。

二つ目の講義は香川県立保健医療大学保健医療学部臨床検査学科大崎博之技師の「尿沈渣と尿細胞診が連携するために」で、前半は尿中異型細胞の見方を解説して頂いた。最新の膀胱取り扱い規約、良性異型細胞、G1 から G3 の尿路上皮癌や上皮内癌（CIS）の細胞鑑別ポイントを多数の写真で説明を受けた。特に超生体染色では経時的に核が濃染するので注意が必要であると理解できた。後半は尿細管上皮細胞の見方を解説して頂いた。腎組織と対比して細胞を示して頂き、とても判りやすい内容であった。特に反応性尿細管上皮細胞は腎疾患や治療薬により尿細管上皮細胞が扁平化、膨化、紡錘化などをおこすもので、患者の病態や治療法を良く考えて総合的に判定しなければならない。BUN などの生化学マーカーの変化の前に、尿中に尿細管上皮細胞が出現するので一般検査でしっかりこの細胞を捕らえていかなければならないと思った。

平成 19 年 02 月 18 日報告：古市 佳也

●●● 情報 06-057

日時：平成 19 年 02 月 24 日（土）（15:00～17:00；京都保健衛生専門学校）

参加人数：9（9）人 分類：B-34-10 点

主題：パソコン講座 Ctrl キー、Shift キー、Alt キーを使いこなす

講師：増田 健太 技師（京都大学医学部附属病院）

臨床検査領域において、学会発表や論文投稿などだけではなく日々の業務においてもパソコンを使う場面が多くなってきている。その際に、できるだけ少ない手数で同じ作業を行うことを可能にするのがショート

カット機能である。かつてはコマンドを入力してコンピュータに指示を与える方式であったが、Windows や Mac OS にはマウスなどによってコンピュータへの指示を行う方式が実装されるようになり、ますますキーボードを使う機会が減少している。しかし、マウスだけを使用して作業を行うのと、マウスとキーボードとを併用して作業を行うのとを比較すると、マウスだけの作業がいかに時間を要し、効率が悪いものであるのかが見えてくる。この効率悪い作業を続けるのは、その個人の貴重な時間を無駄に費やすのみなら良いが、それによって意味のない残業が発生してしまうならば、病院や企業経営にも影響を及ぼしかねない。ショ

ートカットキーは覚えにくいとよく言われる。全てのショートカットキーを一度に覚えることなどは誰にもできるものではなく、地道に一つずつ覚えるしか道はない。また机上でいくら学習しても、それを実際に使用できることにつながるとは限らないので、やはり実践において「もっと効率よくできる方法はないのか」と模索することが肝要である。そういう模索を反復することによってその技術は必ず身につく。「いまこうして時間をかけてしている作業は、無駄ではないのか？」と常に自らに問いながら仕事に取り組むことがこれからの臨床検査技師にも必要となってくるはずである。

平成 19 年 03 月 21 日報告：増田 健太

●●● 輸血 06-055

日時：平成 19 年 02 月 24 日(土)(14:00 ~ 17:00；京都アスニー)

参加人数：32 (32) 人 分類：C-77-10 点

主題：輸血分野学術講演会 2

副題：保存前白血球除去輸血用血液製剤の供給と初流血除去について

講師：河村 朋子 氏(京都府赤十字血液センター供給課医療情報係)

平成 19 年 1 月 16 日採血分より保存前に白血球を除去した血液製剤が製品化された。保存前に白血球を除去することで白血球に起因する発熱反応などの輸血副作用の減少や赤血球製剤の保管中に産生されるマクロアグリゲート発生の減少が期待できる。

また献血時において初流血を除去する採血方法が開始され、これにより皮膚常在細菌の混入を減少させることが期待できる。

平成 19 年 03 月 14 日報告：多気 秀和

●●● 北部 06-057

日時：平成 19 年 02 月 24 日(土)(15:00 ~ 17:00；舞鶴市西駅交流センター)

参加人数：22 (15) 人 分類：C-83-10 点

主題：感染管理の実践-LBS の効用-

講師：山中 喜代治 技師(国家公務員共済組合連合会大手前病院)

後援：日本ベクトンディッキンソン株式会社

山中先生は大変熱意のある先生でした。まず今回の講演で特に学ばせていただいたことは先生が入職以来 22 年間取り続けてこられた「仕事に取り組む姿勢」でした。臨床検査はどの分野でも言えることですが、細菌検査においても菌に対する知識はもちろんのこと薬剤に対する知識、画像診断に対する

知識、疾患に対する知識、治療に対する知識すべてが必要となります。医師と協力して院内サーベイランスを行っていかこうとするには医師と対等の知識では無理です。医師以上の努力と知識が必要となります。このことは一日で成し遂げることは不可能です。長い積み重ねで初めて得られるものです。それが先生が 22 年間続けられている「仕事に対する姿勢」です。講演には実際に院内サーベイランスに取り組まれている看護師の方も参加されていました。抜群の話術で息をつく間もない二時間でした。先生は私たちに細菌検査に対する知識とともに「仕事に対する熱意の大切さ」を語ってくれました。これからの臨床検査技師発展につながる最も重要な点だと感じました。

平成 19 年 03 月 23 日報告：四方 学

平成 18 年度第 9 回定例理事会議事録

日時：平成 19 年 2 月 8 日(木) 18:30 ~ 20:30
 場所：京都保健衛生専門学校
 司会：白波瀬
 議事録署名人：林雅弘、今田尚文
 出席顧問：田畑
 出席理事：湯浅 白波瀬 今井 江見 丹羽 林(雅)
 今田 豊山 大田 佐々木 林(孝) 白井
 出席事務局員：山方
 委任状出席：廣瀬、石澤、小澤、小原、芦田、荻野、
 欠席理事：若栗

1.【報告事項】

- 会長行動報告
 1) 日臨技関係
 ・ 1月27日(土) 代議員会：日臨技会館第一会議室、都道府県会長連絡会議：日臨技会館第一会議室、公益法人を目指す方向、臨床検査データ共有化について、生涯教育研修制度について、福利厚生事業について、会長会議は年一回開催をしたい
 ・ 2月3日(土) 日臨技地区連絡協議会、日臨技より会長・副会長参加、公益法人事業について質問がありました
 2) 近臨技関係
 ・ 1月19日(金) 兵庫県技師会新年交礼会 於：三宮研修センター
 ・ 2月3日(土) 近臨技理事会、会長会議、OB会懇親会 於：長浜ロイヤルホテル
 3) 京臨技関係
 ・ 1月20日(土) 私立病院協会新春会員懇親会 於：京都全日空ホテル
 4) 平成 19 年度日本臨床検査技師会連盟責任者会議 於：大森東急イン
 5) 第 15 回加藤勝也賞
 受賞者：村瀬光春氏(愛媛大学医学部附属病院 診療支援部長)、業績テーマ：集団検診事業に関する精度及び資質の向上への貢献

理事報告

- 白波瀬副会長
 1) 社団法人京都府放射線技師会 厚労大臣表彰受賞記念パーティー・新年会に出席(会長代理) 日時：平成 19 年 1 月 20 日(土) 場所：ばるるプラザ京都 8F 展望ラウンジ「大文字」
 2) 新事務所の看板取り付け：2月9日のPM 2:00 から(雨天順延)
 荻野学術部長
 1) 2月3日、近臨技理事会、日臨技地区連絡協議会、近臨技学術部会に出席
 2) 学術部第2回臨床化学研修会開催 1月30日 於：京都保健衛生専門学校、テーマ：免疫アッセイの基礎とその変遷 参加者：32名、参加者にアンケートをお願い回収しました
 3) 細胞検査研究班より奈良臨技細胞研究班との共催研修会申請について - 検討事項
 4) 血液検査研究班より予算執行について - 検討事項
 小澤総務部長
 1) 四国地区「管理・運営研修会」開催のお知らせ(別紙資料)
 2) 第33回くらしと健康展報告書 理事へ冊子配布
 3) 会員へ行事予定表配信停止の案内について：従来の配信希望の会員は12名(2/6現在)
 4) 日臨技総会案内、委任状回収について
 施設会員分は施設連絡責任者に回収依頼、京臨技回収：締切 2/28

- 5) 新事務所開所準備
 電気、ガス開通。NTT一般電話回線申請中
 事務機器・備品調整中、2月末までに揃える予定
 関連団体、賛助会員への事務所移転案内はNTT電話番号決まり次第に印刷・発送
 江見理事
 ・ 2/6現在の会員数933名(新・再入会80名含む)
 佐々木理事
 ・ 2日京都市、5日京都府の精度管理調査に参加
 豊山理事
 ・ 2/6 第42回京都病院学会第1回実行委員会出席
 事務局山方
 ・ 2/2 公益法人制度改革についての第2回説明会出席 於：京都商工会議所、総務省大臣官房管理室より公益法人行政の動向・公益法人制度改革の概要の説明

2.【議題】

- 1) 細胞検査研究班より奈良臨技細胞研究班との共催研修会申請について <承認>
 京都臨床検査技師会(細胞研究班)・奈良臨床衛生検査技師会(細胞研究班)・日本臨床細胞学会京都支部・奈良支部と4団体共催
 2) 血液検査研究班より予算執行について
 議題 血液検査研究班から、実技講習会を開催につき余った年間予算を使い切らぬため実技講師15名前後の講師料と昼食費用を認めて欲しい旨、本部会計に相談があり、理事の学術部長と会長・副会長にその内容を伝達。学術部部長と副部長は「この申請に対して他の研究班は予算内で運用しており、弁当も支出していないので本年度は認めない。」と結論。
 学術部長としては、実技講習会(年1・2回)の際は運営委員の昼食代や、多数の講師が必要で、運営費用の超過を認めても良いと考える。しかし、講師人数は規定できないが必要性が説明出来る秩序のある人数で行うことを要する。この件につき3月の班長合同理事会の前(15分)学術委員会を開催し、各班長に説明したいと考える。
 次年度からは如何するか理事会に諮る旨、議題提起。
 結論 講師料・交通費は支給するが年度途中につき規定に無い昼食代認められない。次年度以降の検討課題としていく。
 3) 臨床検査データ共有化事業参加について <承認>
 参加施設の呼びかけを京臨技のホームページにて広報。積極的に働きかけを行う
 4) 京臨技事務所開設に向けての準備について
 3月に班長・理事の合同会議を開催・事務所開きを kamt にて案内
 5) 総会タイムスケジュール <承認>
 定期総会 日時：平成 5 月 26 日(土)
 場所：京都教育文化センター
 定期総会後 事務所見学 懇親会(事務所開所祝賀会)
 総会議案書作成準備、研究班活動報告書...今年度は班長・部長・締め切り日を3月26日厳守、原稿作成上の注意...書式は前回総会議案書に従う、報告方法：kamt メーリングにてアップ、3/3 チーム医療、細胞検査、血液検査、3/8 生理検査、3/20 臨床化学研修会、上記の予定を踏まえ宜しくお願い致します。
 6) 京臨技研修室利用規約 <継続>

次回班長合同理事会 3月15日(木) 18:15

京都府臨床検査技師会理事・班長合同会議議事録

日時：平成 19 年 3 月 15 日(木) 18:30 ~ 19:00
 場所：京臨技川端丸太町事務所
 出席者：理事 16 名、班長・副班長・会計 16 名、顧問 1 名、事務局 1 名
 【議題】

- 1) 京臨技仮会員制度(内規)についての連絡
 ・趣旨は別紙報告
 ・正会員のメリット・デメリットをホームページに載せ広報する。会名の前に社団法人を入れる
 ・仮会員証の本人確認を仮会員証発行時に本人自筆で氏名を

記載してもらおう

- 2) 研修室の利用規約についての意見交換
 - ・京臨技の活動で申込の場合は 6 ヶ月前から受付、それ以外の利用申込は 1 ヶ月前から受付、京臨技事務局に申込が必要
- 3) 第 42 回京都病院学会の座長 6 名、準備委員 4 名の選出について依頼
 - ・6 月 10 日(日): 一般演題 27 題・
 - ・生理研究班 3 名~4 名・他 3 名~4 名選出。班長に依頼することになると思います。理事も宜しくお願いします。
 - ・準備委員: 受付・前日・当日通して 4 名
- 4) 京臨技運営についての意見交換
 - 講演会・実技講習会での予算について
 - ・講師料、交通費、試薬・材料費等(講師人数について、運営委

員のお弁当代は認めない方向についての意見)

- ・講師料: 出席者と講師のバランス考慮、交通費: 実務委員は認めている、弁当代: 日臨技も弁当代は認めてはいない、日当の運用: 理事会への宿題
- 共催について
 - ・主従の関連
 - ・広報: 共通のフォーマットについて弾力的な運用を考えほしい
 - ・会計: 報告期日を 10 日以内は共催他団体の関連で無理が生じているので考慮してほしい
 - ・共催についてもう少しやりやすい方法を理事会に要望
 - ・学術部より、各研究班へ申請は 2 ヶ月前には報告をして下さい

平成 18 年度第 10 回定例理事会議事録

日時: 平成 19 年 3 月 15 日(木) 19:30~21:30

場所: イ・コロリ

司会: 白波瀬

議事録署名人: 林雅弘、荻野和大

出席顧問: 田畑

出席理事: 湯浅 白波瀬 芦田 石澤 荻野 江見 白井
丹羽 林(雅) 豊山 廣瀬 大田 佐々木
若栗 小原 小澤

出席事務局員: 山方

委任状出席: 今井、今田

欠席理事: 林(孝)

1.【報告事項】

会長行動報告

- 1) 日臨技関係 なし
- 2) 近臨技関係
 - ・3 月 4 日(日) JICA アフリカ臨床検査技術コース反省会 於: JICA 大阪
 - ・3 月 10 日(土) 第 19 回近畿臨床検査技師会免疫血清研修会 挨拶 於: ウェルサンピアなにわ
- 3) 京臨技関係 なし
- 4) その他
 - ・日臨技共有化事業参加施設: 京都大学医学部附属病院、京都府立医科大学附属病院

理事報告

白波瀬副会長

- ・新事務所の看板取り付け立会い: 2 月 9 日
 - ・会報 (No.18) 発行
- 荻野学術部長
- ・2 月 22 日 京都消化器医会 京都府医師会の主催講演会(京臨技後援)
 - ・2 月 27 日 第 3 回臨床化学研修会(精度管理報告)開催
 - ・3 月 15 日 学校法人 京都府保健衛生専門学校卒業式出席(会長代理)
 - ・3 月 20 日 第 4 回臨床化学研修会開催予定
 - ・4 月 24 日 平成 19 年度第 1 回臨床化学研修会開催予定
- 石澤業務部長
- ・京臨技精度管理結果報告書を 2 月中旬に発送
- 小澤総務部長
- ・平成 18 年度日臨技第 2 回定期総会委任状 431 通 出席票 1 通
 - ・会員へ行事予定表配信停止の案内について、郵送希望会員数 44 名 3/13 現在
 - ・会員証不携帯届提出数 18 年 9 月~現在まで 12 件、後日入金も含め全て会員確認済
 - ・新事務所開所準備
N T T 一般電話回線 0 7 5 - 7 5 2 - 5 0 9 0
関連団体、賛助会員への事務所移転案内発送
複合プリンタ、P C 納入 3/20、その他の備品は納入済み

江見理事

- ・3/5 現在の会員数は 922 名(新・再入会 80 名含む)
- 佐々木理事
- ・総会号の会誌の広告依頼 64 通発送しました

豊山理事

- ・3/6 第 42 回京都病院学会第 2 回実務委員会出席

2.【承認報告】

- ・京臨技仮会員制度(内規)について 別紙 <承認>
日臨技の会員になってもらうのが大原則。この間日臨技・近臨技の会には参加できない条件の文章を作り直しメーリングで流す

3.【議題】

- 1) 研修室の利用規約について(班長合同会議での意見交換をふまえて 白波瀬) <承認>

申し込み方法

京臨技の活動で申込の場合は 6 ヶ月前から受付
それ以外の利用申込は 1 ヶ月前から受付

- 2) 講演会・実技講習会での予算(講師料、交通費、試薬・材料費等)について(班長合同会議での意見交換をふまえて 荻野) <承認>

実技講習会は京臨技活動では重要な事業であり、更に学術活動を充実していくために 17 年度は認めていなかった。運営委員の交通費を 18 年度では運営委員全員に交通費実費を認め、運営委員の各講師料も 5 千円で認めることで実施。更に実技講習会を 5 万円の範囲内で施行していく事で新たにに出發した。したがって来年度も同様に施行していく旨、改めて広報し周知徹底する。

共催について円滑に開催が出来るよう配慮してほしい旨、研究班より要請あり。

共催の場合、研究班は学発の申請を速やかに行い、学発番号を取ることで認定し広報する。広報に関して、できれば双方で統一広報が望ましいが、それぞれの学会の立場があるので多少のずれは仕方ないとする。会計報告を 10 日以内に行うことに関しては、他団体の状況もあるため見直しも検討する。メーリングでの不備の指摘については混乱を招かないように考慮する。

- 3) 京臨技精度管理結果報告書の配送方法について(今井)

メールにて報告いただいたとおり <承認>

- 4) 第 42 回京都病院学会の座長 6 名、準備委員 4 名の選出について 締切 3 月末(豊山) <承認>

- ・準備委員は、広瀬理事と豊山理事で 4 名選出
- ・座長は 生理研究班 3 名・病理研究班 1 名 湯浅会長・荻野理事で決定

- 5) 京都私立病院協会から微生物院内感染対策委員会継続(丹羽) <承認>

2 年前に京都私立病院協会主催で微生物院内感染委員会が開かれておりました。今年で予算終了にあたり、来年度以降も 3 年間微生物院内感染対策委員会の継続依頼あり。

なお、メンバーの構成は各団体に任されているが、今年度も昨年同様のメンバーでお願いしたいと要請がありました。

次回理事会 4 月 12 日(木) 18:30

会場: 京臨技川端丸太町事務所